

温帯のサンゴ礁・サンゴ群集と最近の変化 Temperate coral reefs and coral communities and their recent changes

山野 博哉^{1*}, 杉原 薫¹
Hiroya Yamano^{1*}, Kaoru Sugihara¹

¹ 国立環境研究所

¹National Institute for Environmental Studies

南北に長い日本では、南から北へとサンゴ礁地形やサンゴ群集の緯度勾配に沿った変化が観察される。これまで、サンゴ礁の北限は長崎県壱岐と考えられてきたが、ボーリングと年代測定により北限が対馬であることが確認された (Yamano et al., 2012)。このサンゴ礁はククメイシ科のサンゴで形成されており、沖縄など熱帯・亜熱帯で見られるミドリイシ科主体のサンゴ礁とは形成種が全く異なっている。最近、このサンゴ礁の近傍で、暖温帯性のエンタクミドリイシの定着が確認された。日本沿岸においては、1930年代から現在にかけての数時期にサンゴの調査が行われており、その結果をデータベース化することにより、エンタクミドリイシのみならず、熱帯・亜熱帯性のスギノキミドリイシ、クシハダミドリイシ、シコロサンゴが分布北上しており、北上速度は最大で 14km/年であることが明らかとなった (Yamano et al., 2011)。日本近海では最近 100 年間に水温が 1~1.6 度程度上昇しており、その水温上昇がサンゴ分布北上の原因と考えられる。サンゴは藻類と競合関係にあり、サンゴの北上や増加は沿岸海洋生態系を変えてしまう可能性がある。

キーワード: サンゴ, 北上, 地球温暖化

Keywords: coral, poleward expansion, global warming